学校評価計画

令和６年度　学校自己評価シート　　福生市立福生第五小学校　　校　長　　泉田　　巧人　印

学校教育目標　　〇よく考え学習する子（問題解決力）　〇優しく思いやりのある子（人間関係形成力）　〇健康でねばり強い子（実践力）

目指す学校像（ビジョン・ミッション）

「確かな学力、豊かな心、健やかな体」の調和のとれた児童の育成
コミュニティ・スクールとして、保護者、地域、関係諸機関、教職員が一体となり、一人一人をや移設にした安全で安心な学校

【目指す学校像】	【目指す教師像】	【目指す児童・生徒像】	【その他　特記事項】
①『確かな学力、豊かな心、健やかな体』の調和のとれた教育活動を推進する学校 ②「人間性豊かで、他者との関わり合いを大切にする子どもの育成」を目指す学校 ③コミュニティ・スクールを基盤として地域・保護者との協働を生かす学校	①公務員としての自覚と責任を果たす教師 ②児童理解を深め、保護者の願いを汲みつつ適切な指導ができる教師 ③児童に「分かる・できる」を実感させる授業を常に追求する教師	①よく考え学習する子 ②優しく思いやりのある子 ③健康でねばり強い子	・人権教育の理解と道徳教育の充実による、安心・安全を土台とした学校経営を進める。 ・特別支援教育やユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを進める。

領域例：学力向上策、生活・進路指導策、人材育成策、研究研修策、学校運営策、特色ある学校づくり策等

領域	三ヵ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価		当初	中期	年間	評語	成果指標（児童・生徒等の変容・成果）	成果自己評価		当初	中期	年間	評語	分析・改善策
組織的効率的学校運営の実現	①コミュニティ・スクールを生かした取組みを進める。 ②分掌組織のPDCAサイクルをより確実に機能させる。 ③校内研修・OJTの充実を図る。	・ゲストティチャーとして招聘する等、地域・保護者との協働により学校課題の解決を進める。	・GCS委員、地域人材による授業への参画 ・教室安全見守りへの協力	・GCS委員と各学年における授業等との積極的な連携	目標		60	70	90	A	・地域人材を活用した授業のまとめに児童の充実感が示されたか。	目標		60	70	90	A	・児童の学校評価で、外部人材の活用した項目において、一番高い項目では肯定的な意見が91%となった。 ・外部人材を活用することで、積極的に学習に向かう姿勢が見られた。
					達成			80	90			達成			70	90		
		・企画会議を計画的に行い、各分掌の取組の改善に生かす。	・月1回の経営会議及び主任会議により課題解決を進め見通しをもった運営	・各月、及び課題解決のための経営会議開催とによるリーダーによる提案及び主任を中心とした全教員の共通理解	目標	70		80	90	A	・円滑な教育計画の進行により、学習・生活の両面において混乱なく活動ができたか。	目標	70		80	90	A	・各分掌リーダーが推進することにより、学習や行事が円滑に行われ児童の学習に対する意欲や姿勢が向上した。
					達成			80	90			達成			70	90		
		・幼保小中連携及び一人一台タブレット型パソコンの活用を生かした校内研修を進める。	・校内研究を柱に、ユニバーサルデザインの視点、個別の支援・指導と評価、ICT活用に着目して、粘り強く学習に向かう態度の育成を図る。	・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善及びICTを活用した行い、粘り強く学習に向かう態度の育成	目標	80	90	90		B	・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を実施し、主体的に学ぶ態度の高まりが変容として捉えられたか。	目標	80	90	90		A	・焦点化、視覚化、共有化を意識するとともにICT機器等を活用した授業づくりを行った。 ・児童の学校評価で「分かる」の項目で、肯定的な意見が88%以上となった。今後も
					達成			80	80			達成			80	90		
学力の定着と向上	5・6年生児童の学力を都の水準程度まで向上	①一人一台タブレット型端末を活用した演習問題に取り組ませ、基礎・基本の定着に生かす。	・タブレット型端末の活用場面を週の指導計画に位置付け、計画的に活用できるように意識化する。	・週ごとの指導計画におけるタブレット型端末の活用の位置付及び確実な活用	目標	70	80	90		A	・「わかる」という実感が持てるようになったか。 ・粘り強く学習に向か姿勢が身に付いたか。	目標	70	80	90		A	・学校評価から保護者の「分かる」への肯定的な意見が90%、児童の「分かる」への肯定的な意見が88%であった。 ・自己評価や振り返りを継続的に行わせることで、粘り強く学習に向かう姿勢が出てきた。
					達成			90	90			達成			70	90		
		②東京ベーシックドリル診断シートの結果を生かした、基礎的・基本的知識等の定着を図る。	・東京ベーシックドリル診断の分析を行い指導する。 ・発達段階に応じた質・量の宿題及び家庭学習に取組ませる。	・東京ベーシックドリルを分析し、児童の学習の弱い点を、朝学習等を活用した繰り返し学習	目標	70	80	90		B	・東京ベーシックドリル診断において、正答が40点未満の児童が10%以下であったか。	目標	70	80	90		B	・東京ベーシックドリル診断シートの算数第３回目の結果、40点未満の児童が18.4%であった。 ・「ふっさ五スタンダード」の活用や児童理解及び特別支援教育の視点を生かすことで、落ち着いて学習に取り組めるようになった。
					達成			70	70			達成			80	80		
		③外部人材の効果的な活用を図り児童の学習効果を高める。	・必要な学級、教科に授業に授業指導補助員を配置し、個別支援の充実に努める。	・SSSと担任の連携を図り、特別な支援が必要な児童への効果的な指導・支援方法の工夫	目標	70	80	90		A	・教室における合理的配慮を受けながら、落ち着いて学習に望めたか。	目標	70	80	90		B	・各学年に必要な児童に必要な時間の配置を行うことにより、学習に向かう場面が見受けられた。 ・別室指導にも配置を行い、不登校気味の児童の居場所を確保することで登校につながった。
					達成			80	90			達成			80	90		
研修・人材育成	①教育管理職候補者及び主幹教諭・主任教諭候補者を育成する。 ②OJTの機能を高め、若手教員の人材育成を図る。	①経営会議の内容の充実を図り、主幹層の経営参加意識をたかめる。	・主任会実施により、学校経営の参画意識を向上させる。 ・マネジメント研修への参加の促進及び主任教諭選考有資格者への講話を実施する。	・学校の職務に見通しをもった提案及び経営層の学校経営参画意識	目標	70	80	90		A	・教育計画の実施に伴い、児童の充実感が得られたか。	目標	60	80	90		A	・様々な変更や微調整が円滑に行うことができた。 ・経営会議により課題把握が確実に行われ、確実に課題解決ができるた。
					達成			80	90			達成			70	90		
		②OJTにおける講師を担い、専門性を高める。	・年間21回のOJTにより、講師自身の学びと若手育成の場とする。	・各回のOJT講師が専門性を生かした研修の実施	目標	70	80	90		A	・学校としての足並みのそろった対応により、児童が安全で安心した生活できたか。	目標	70	80	90		A	・計画に沿って研修を進めるとともに、適時的な研修が行われ、各講師が自身のスキルや学びを伝えることができた。 ・学びを分掌の仕事や授業に生かすことができている。
					達成			80	90			達成			80	90		
		③特別支援教育の研修等を通した、児童理解や教員の知識の習得の機会を充実させる。	・児童理解や対応の知識・技能を習得するための短時間の研修等を実施する。	・職員会議の活用やOJT等による短時間の研修の実施	目標	80	90	90		B	・学年内の学習の質や行事への取り組みの質が整い、児童が安心して学校生活を送ることができたか。	目標	60	80	90		B	・障害や児童の特性に応じ、児童に寄り添った指導ができるようになってきた。 ・児童が学習に向かう姿勢が身に付いてきた。
					達成			70	80			達成			70	80		
特色ある学校づくり	①学校公開の充実と活用を進める。 ②愛鳥活動を中心に据え、生活・総合・各教科等とも関連させて、児童の豊かな学びを展開する。 ③不登校児童の防止に努めるとともに不登校児童には適切な対応支援を行う。	①授業公開や行事の積極的に公開する。	・行事や授業公開を実施し、児童の成長を保護者が見取れるようにする。	・授業や行事の積極的な公開	目標	70	80	90		A	・児童が自分らしさを発揮していきいきと参加することができたか。	目標	70	80	90		A	・学校公開等の保護者参観を充実させ、保護者の学校評価の「学校公開」の項目で肯定的な意見が100%であった。 ・総合的な学習の時間等と各教科等をカリキュラム・マネジメントで関連付け授業を行った。
					達成			80	90			達成			70	90		
		②五小ESDカレンダーを活用し、「愛鳥校」としての学びを充実させる。	・生活科・総合的な学習の時間を柱とし、人材活用を進めながら、地域や環境に関する学びを進める。	・地域人材の積極的活用による実感ある学びの推進 ・地域資源の活用	目標	70	80	90		A	・地域人材を活用した学びの場面で楽しい、分かる等の実感が児童にあったか。	目標	70	80	80		A	・愛鳥活動・環境学習等を計画通りに実施できた。 ・各教科、道徳科、総合的な学習の時間等に外部の人材を講師として招聘し、授業を行った。
					達成			80	90			達成			90	90		
		③関係諸機関との密接な連携のもと具体的な対応を行う。	・家庭・地域・各機関等と連携し、いじめの早期発見・解決を図る。	・校内支援委員会の充実及び人材資源の効果的な活用 ・GCSとの連携した活動	目標	70	80	90		B	・支援を必要とする児童の相談から具体的な対応や指導について専門的なアドバイスを得て、児童が学級を居心地良く感じられるようになったか。	目標	50	70	80		B	・不登校対応を粘り強く行った。 ・学級活動で学級会で自治的な活動に対する話合いやレクリエーション等の活動を充実させ、児童のコミュニケーションの力を身に付けさせている。
					達成			60	80			達成			60	80		

前年度の学校評価をいかして、4月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を％で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の5割未満はＣ、８割未満はＢ、10割未満はＡ、目標超えはＯの標語を記入する。